

第114回

日本美容外科学会

The 114th Congress of Japan Society of Aesthetic Surgery

会場：The Okura Tokyo 〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-10-4



スポンサードセミナー5

侵襲度を考慮したエネルギー治療

肌質改善とたるみに対する臨床的検討

2026年5月28日(木) 14:50~15:40

7F メイプル【第4会場】

座長：宮田 成章 先生 みやた形成外科・皮ふクリニック院長

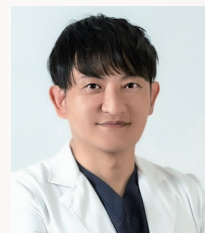


speaker

従来のRF治療を代替しない新たな選択

水膜共鳴型RF (Hydro-Phase Resonance) の物理特性と臨床的意義

高尚威 先生 東京美容医療クリニック院長



675nm新波長を使用した肌育ECMLレーザー®における 2年間の臨床的価値について

牧野 良彦 先生 まりもクリニック院長



共催



第114回 日本美容外科学会

お問い合わせ先



メトラス 株式会社

info@metras.jp / 03-6256-0181



従来のRF治療を代替しない新たな選択

水膜共鳴型RF (Hydro-Phase Resonance) の物理特性と臨床的意義

高尚威 先生

東京美容医療クリニック院長

従来のRFたるみ治療は、高周波電流によるジュール加熱を基盤とし、真皮から皮下組織にかけての組織加熱を通じたタイトニングを目的として発展してきた。一方で、既存治療を置き換えるのではなく、治療体系を維持したまま補完・併用が可能な新たな選択肢が求められる場面も少なくない。さらに、治療深度や加熱分布を目的別に最適化する観点から、異なるエネルギーデバイスやモダリティの併用が行われることも多く、治療設計が複雑化する場合がある。

Hydro-Phase Resonanceは、水分子の存在を前提とした水膜共鳴型RFという概念を採用し、熱挙動の制御性に着目して設計されたRFデバイスである。水冷機構およびオンタイム・オフタイム制御を組み合わせることで、表皮を保護しながら深度の異なる組織へのエネルギー伝達を可能とし、従来RFとは異なる加熱分布を形成する点を特徴とする。

本講演では、Hydro-Phase Resonanceの物理特性を中心に、インピーダンス挙動、加熱様式、エネルギー到達深度の違いを整理し、従来RFとの構造的差異を明確化する。さらに、複数のチップ設計によるアプローチ深度の違いが、臨床においてどのような組織反応として現れるのかを症例ベースで検討し、疼痛や表層反応といった施術許容性との関連について考察する。

HydroPhaseは既存のRFたるみ治療を代替するものではなく、治療体系を維持したまま併用可能な位置づけを有する。本発表を通じ、RF治療における熱挙動制御という観点から、たるみ治療デバイス選択の解釈の幅を広げ、その臨床的意義を検討する。

675nm新波長を使用した肌育ECMLレーザー®における 2年間の臨床的価値について

牧野 良彦 先生

まよりクリニック院長

コラーゲンを標的とする世界初の赤色フラクショナルレーザーであり、唯一675nm波長を用いる「Red Touch PRO (DEKA社:イタリア)」について、当院では2年間臨床的検討を行ってきた。従来のフラクショナルレーザーは水分に反応して高熱を生じるため赤み・疼痛・長いダウンタイムが問題で、日本ではリジュビネーション治療として普及しなかった。一方、光治療は広く行われるものの、シミ治療には限界があり、たるみへの効果も十分ではない。

Red Touch PROを評価したところ、たるみ(引き締め、ハリ)、小じわ、しみ、くすみ、赤みの改善など多面的な改善を安定して確認できた。患者満足度は高く、軽度PIH以外の有害事象もほぼ認められなかった。施術直後には即時的なタイトニングが得られ、2~3週間後にはコラーゲン生成によりさらなる肌質改善が現れた。疼痛は極めて軽度で麻酔も不要であった。治療は月1回、3回を1クールとし、回数を重ねることで効果がより明瞭に示された。赤みについては血管を破壊せず、血管壁内コラーゲンへ作用して改善すると推察される。

675nmはメラニンにも反応するため、日本人の肌に適した新しいリジュビネーションのゲームチェンジャーとして期待される。海外論文報告では肝斑、瘢痕、口唇ボリューム、AGAなど多彩な用途に用いられ、老化予防を目的としたPrejuvenationも進む。今回は、2年間の臨床経験に基づき、Red Touch PROの特徴、使用方法、プロトコル、臨床効果について報告する。